

授業科目名	2単位 (1-3)	担当教員
介護等体験 (Practice in Social Volunteer Work)		近藤 功行

授業の到達目標及びテーマ

本講義は社会福祉施設5日間・特別支援学校（旧養護学校）2日間体験に際し、講義と体験名が一致している。体験に際し、少しでも理解しやすく有意義なものとなるよう本科目設定がある。講義を通して、全体の仲間作りをはかっていただきたい。全員が丸となって取組まないと、この体験は成功しない。例えば、特別支援学校へ行く際、開始時間前に到着する連携行動が要求される。仲間作りが必要となる。両体験が全員終了したのを見計い、「発表会」を開催、当該科目は終了となる。講義自体は前期で終了する。体験は前期で終了する場合もあるが、全員が終わる次期を待って発表会を行なう。2013年度は、12月期に「発表会」が開催できた。

授業の概要

介護等体験は、小・中学校教員免許希望者に必須の実習である。7日間の介護体験学習を行うにあたり、社会福祉施設や特殊学校の事前オリエンテーションの他に下記について学修し理解を深める。福祉施設また特殊教育諸学校で何を学ぶことになるのか、各施設の概要、教師になるために、何故介護等体験が必要なのか、実習の心構えなどを教示する。講義設定をはかった理由は、円滑に実習が行えることが目的である。講義そのものも重要であるが、前述したように受講生の仲間作りを目指したい。まず前期開始、初期段階でつくってゆきたい。

予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。

復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。

授 業 計 画

第1回：	受講確認；当該年度「発表会」までの参加が義務づけられるため。	第8回：	社会福祉施設の概要を知る③「体験先までの地図を描く」意義含む
第2回：	社会福祉施設体験の申し込み説明(申し込み書類が到着していた場合第1回講義で実施)。最終人数の確認後、教科書2種類発注。	第9回：	3障害と高齢者福祉を学ぶ
第3回：	社会福祉施設の概要を知る①	第10回：	障害者雇用の重要性を学ぶ
第4回：	社会福祉施設の概要を知る②	第11回：	学校教育とノーマライゼーションの視点
第5回：	社会福祉施設を学ぶ・外来講師	第12回：	特殊教育諸学校を知る①
第6回：	特別支援学校へ全員で行く前に	第13回：	特殊教育諸学校を知る②
第7回：	特別支援学校訪問(全員参加；講義時間内を使用。今年度から。)	第14回：	介護等体験と医療・保健・福祉&高齢者と子ども
		第15回：	総括(試験に代わる課題；内容の説明＝一部、第14回講義から)
		第16回：	試験に代わる課題(試験に代わる課題レポート作成：指定期日までに提出)
			※外来講師・特別支援学校受入れ日程などから、順番変更あり。

テキスト：※2冊とも購入必須。文科省で定めた内容です。教科書を使用して講義をとるかたちで、進めません。テキスト2種類は先輩から譲り受けるものでもなく、また終了後そうすることは回避して下さい。自宅で保管して、体験を振り返ることが教職課程本科目履修の意義です。①社会福祉法人全国社会福祉協議会（発行）『新版・よくわかる社会福祉施設 - 教員免許志願者のためのガイドブック』2003 525円、②全国特殊学校長会（編著）『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック』フィリア ジアース教育新社(2003) 980円〔価格は前年度〕。

評価方法・評価基準：①社会福祉施設体験＝行先が決定後、事前訪問を行い体験に行く迄に施設までの地図提出(ネット打ち出し印刷のみ不可)。②「試験に代わる課題」提出と出席を併せて評価します。③体験先での内容は、評価の対象にはしません。ただし、2つの体験を終えること、そこは評価対象となります。④発表会＝体験報告会は正装で望んで下さい。発表会ではA4・1枚のレジメ作成、全員のものを集めて冊子を受講生で作ります。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)		○	○				60
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○	○	参考程度
授業態度			○	○			10
受講者の発表			○	○			参考程度
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							10

履修上の注意：毎回の出席は、絶対条件です。申し込みなど、諸費用がかかります。特別支援学校行きは、公共の交通機関利用＝本学スタート「タクシー相乗り運賃」が必要となります。なお、本科目は、授業と体験〔＝公欠手続をとって下さい〕＝福祉施設5日間・特殊教育学校2日間で、2単位を構成しています。何らかの事情で、社会福祉施設実習が連続した5日間で終わらない場合、延長となる場合は先方の指導者と相談して、延長して下さい。なお、成績は全員の体験終了が後期になること、発表会資料作成を待って成績を付けるため、後期で出ます。出欠重視。

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
道徳教育の研究 (Moral Education)			照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の歴史と理論を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養う。								
授業の概要 主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。さらに教育（学）全般についての理解を深める。 授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと								
授 業 計 画								
第 1 回： 道徳教育はどうあるべきか		第 8 回： 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語）						
第 2 回： 同和（人権）教育を学ぶ①		第 9 回： 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論）						
第 3 回： 同和（人権）教育を学ぶ②		第 10 回： 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える						
第 4 回： 同和（人権）教育を学ぶ③		第 11 回： 「心のノート」の意義と問題点を考える						
第 5 回： 〈生・性・死〉の授業の意義を考える		第 12 回： 道徳教育と開発教育						
第 6 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①		第 13 回： いじめ問題を考えよう						
第 7 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②		第 14 回： 道徳教育とエンカウンター						
		第 15 回： ディベート（道徳の教科化）						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。								
参 考 書： 1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』（第2版）酒井書店・育英堂 2006 2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004 3 柴田義松(編著) 『道徳育～理論と実践』学文社 1992 4 文部科学省 『中学校学習指導要領』								
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		40
授業態度		○	○	○	○	○		30
受講者の発表		○	○	○	○	○		30
演 習								
その他								
履修上の注意： 1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。 出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																
国際理解教育		玉城 直美																																																
授業の到達目標及びテーマ：国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、最終的には教材作成が出来ることを重視する																																																		
授業の概要 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われなければならないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。今年は、概ね5年に一度の世界のウチナンチュ大会であり、本大会および各国県人会（会員）との交流も予定しており、沖縄の地元教材の制作に臨む。 予習：世界を知る努力の為に自分は何が出来るのか、計画を立て、予習計画を作成すること 復習：授業の中で取り上げた課題を理解するために、ニュース等さらに自己探求を深め、課題、発表等に活かすこと																																																		
授 業 計 画 ※授業内容を変更する場合は、事前連絡予定 第1回 国際理解教育の始まりについて・講義 第2回 戦争と国際理解教育 第3回 地球の食卓、フードマイレージ 第4回 携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり 第5回 世界のウチナンチュを教材から捉える 第6回 世界のウチナンチュとの交流、交流にみる国際理解教育 第7回 たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性表 第8回 アジアのカレーを食す（予定）調理実習 第9回 アジアのカレーを食す（予定）調理実習 第10回 社会派映画に観る国際理解 第11回 自己肯定感を高めるワークショップ 第12回 世界のウチナンチュを題材に「沖縄移民」教材を作成 第13回 国際理解教育学生発表 その1 第14回 国際理解教育学生発表 その2 第15回 まとめ 振り返り																																																		
テキスト：適宜プリントを配布																																																		
参 考 書：講義においてそのつど提示する。																																																		
評価方法・評価基準：																																																		
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 フィールドワーク</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート	○	○					20	授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30	受講者の発表		○			○		20	演 習								その他 フィールドワーク	○		○	○			30
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
授業内レポート	○	○					20																																											
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30																																											
受講者の発表		○			○		20																																											
演 習																																																		
その他 フィールドワーク	○		○	○			30																																											
履修上の注意：フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表（最後の授業プラン作り）を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。																																																		

授業科目名		2単位	担当教員				
教育総合研究		(2-0)	照屋 信治				
授業の到達目標及びテーマ： 教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。							
授業の概要 ① これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ② また、教員採用に関する状況を説明し、受講者が採用試験対策を行えるようにする。 ③ さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと							
授 業 計 画							
第 1 回：	講義の概要説明 教員採用に関して①	第 8 回：	模擬授業と批評会①（道徳の授業）				
第 2 回：	教員採用に関して②	第 9 回：	模擬授業と批評会②（道徳の授業）				
第 3 回：	教員採用に関して③	第 10 回：	模擬授業と批評会③（道徳の授業）				
第 4 回：	教育問題の討議①	第 11 回：	模擬授業と批評会④（道徳の授業）				
第 5 回：	教育問題の討議②	第 12 回：	模擬授業と批評会①（H R ・ 特別活動）				
第 6 回：	教育問題の討議③	第 13 回：	模擬授業と批評会②（H R ・ 特別活動）				
第 7 回：	教育問題の討議④	第 14 回：	模擬授業と批評会③（H R ・ 特別活動）				
		第 15 回：	まとめ				
テキスト：講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。							
参考文献： 講義中に適宜お知らせする。文部科学省『中学校学習指導要領』							
評価方法・評価基準：出席状況、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○	○	○		5 0
受講者の発表	○	○	○	○	○		5 0
演 習							
その他							
履修上の注意： 1 教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。 2 教員採用試験を受検することを前提とする。							